

令和7年度 磐田市地域福祉推進会議及び
磐田市社会福祉協議会地域福祉推進会議 会議録

【日 時】 令和8年1月22日（木）午前9時30分～午前11時15分

【会 場】 磐田市総合健康福祉会館 i プラザ 2階ふれあい交流室 1・2

【出席者】 13名

【欠席者】 2名

【事務局】 行政：11名 社協：6名

1 委嘱状交付

2 あいさつ

3 議事

(1) 第4次磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗状況について

(資料1) (資料2)

資料1に基づき市福祉政策課担当者から市の事業の指標をもとに説明した。続けて資料2に基づき市社協担当者から社会福祉協議会の事業について指標と展開内容の説明をした。

委員長

事務局からの説明に対し質疑、意見をいただきたい。

委員

団塊世代は70歳代になり支える側から支えられる側にシフトしていく。そんな中で時代の変化を強く感じる。人が生きていく上でコミュニケーションすることを大切にしたいが、今や生成AIが相談相手になることもあると聞いた。福祉や個人の考え方が多様化しており難しい時代になっている。私は説明していただいた中で『人づくり』、特に福祉教育について興味を持っているが、市や社協が実施する講座は実践的な講座が多く、特に『みんなの福祉教育』に関しては、実際の体験の話聞くことが出来るので行って良かったと感じる。ただ知識を増やすだけではなく人とコミュニケーションをとり人と交流することは励まされるし大切だと感じる。

委員

避難行動要援護者の個別避難計画作成について。どんなデータを基にして作成をしているのか。

事務局

自治会の防災会に関して、まず避難行動要支援者名簿の申請をしていただき、自治会に対象者の個別避難計画を作っていただいている。それを取りまとめた結果がこのデータである。

委員

自分も自治会に提出しているが、障害者はどの位の率が出ているのか？

事務局

手元に資料がないので、お答えできかねる。

委員

資料1の基本目標2・No10について。生活支援コーディネーター（以下 SC）による地域資源把握件数とあるが、今年度磐田市は地域リハビリテーション事業での介護予防の視点で同行訪問を職員がして地域に繋げるという視点で関わっていると思うが、実際に SC がどのように活動しているのか、関わっているケースとその後のどのように地域に繋げているのか教えていただきたい。

事務局

SCの活動について、令和6年度から地域リハビリテーション活動支援事業を開始し SC に地域資源とのマッチングについて関わっていただいている。具体的にはフレイル状態の方に対して理学療法士や作業療法士などのリハビリ専門職に関わっていただき、身体の状態を見ていただき、その状態によって自分でトレーニングをしたり、3ヶ月間の短期集中支援事業を取り入れたり、もしくはリハビリ専門職が自宅へ訪問するなどして体の状態を戻していく。問題はその後で、一定期間の自主的トレーニングや専門職の関わりなど個人で継続出来る方であればいいが、サロンやいきいき百歳体操など何かしらの社会参加へ繋ぐ必要がある時に SC に関わっていただいている。いろいろ課題があり、昨年度地域リハビリテーション活動支援事業実績は51件あった。その中にはある程度フレイルが進んでおり、適切なサービス、回復するというより維持が精いっぱい介護保険申請しデイサービス利用する方や、既存のいきいき百歳体操へ繋ぎ、元気に通っている方もいる。SCの活動としては、地域リハビリテーション活動支援事業だけに関わった人たちが地域にはがどんな資源があり、本人がどんな暮らしを望んでいるのか、その暮らしを続けるためにどういう資源とつないでいくのかというマッチングをしている。先ほど委員の発言にもあったが、今の方たちは価値観が多様化している。既存のシニアクラブやいきいき百歳体操、サロンを希望する方たちばかりではない。本人の希望と合えば、通える場に繋ぐという役割を担っているが、ニーズに合った活動が展開されている所ばかりではない。市内にあったとしても交通手段が不足していることもある。昨年度やっていく中で本人が通いたいものがその地区になく、隣の

地区や少し離れた地区へ通うためにどうしていくのか検討したこともある。SC を社協をお願いしているが、非常に苦勞していただいている面もある。フレイル予備軍の方は増えていくと思われるので、対象となる方が少しでも早く地域包括支援センターや市、社協へ相談する意識をもっていただけるように啓発の部分に対して丁寧に詰めていきたい。

委員

昨年広報いわたに掲載され、今までにない反響があったと聞いている。フレイルに対する意識を持っていただくきっかけの一つになったと思う。今後も継続してもらいたい。

(2) 第5次磐田市地域福祉活動計画・地域福祉活動計画のスケジュール・アンケート調査について (資料3)

資料3及び当日資料に基づき市福祉政策課担当者から説明した。

委員長

事務局からの説明に対し質疑、意見をいただきたい。

委員

『現在の生活全般に対する安心感や満足感』の項目について言葉にしにくい。言葉に出来る方もいらっしゃると思うが、例えば選択肢があると回答しやすいと感じた。

事務局

選択肢は各質問で設ける予定。ただ選択肢から得られないところはあると思うので、それ以外に最後のところで自由記述欄を設け、意見を募りたい。

委員

アンケートは自治会にも回るか。

事務局

幅広く募っていきたい。

委員

このアンケートはインターネットで入力するアンケートとなっているが、インターネットで回答できる方は限られている。一般住民で例えば高齢の方など本当に回答して欲しい方の意見を募りにくい。インターネットだと敬遠してしまうと思う。

事務局

多世代にご回答いただきたいので、紙媒体も用意しより多くの方に回答いただけるよう努力していきたい。

委員

先日高齢者のアンケートがきた。インターネットで入力可能だと思ったら、そうではなかった。高齢者もいろいろな方がいるので、紙媒体でも二次元コード付けて両方の回答方法を用意していただきたい。

事務局

紙媒体にも二次元コードを配置していく。

委員長

外国籍の方からはどう回答を募るか。

事務局

磐田市はポルトガル語を公用語としている方もいる。健康福祉部には通訳もいるのでそちらの協力を得て、外国語に対応したアンケートも作成していく。

委員長

では、この後各自持ち帰っていただき、ご意見があればメールで寄せていただきたい。

(3) 地域福祉推進事業・地域活動の現状について

(当日資料配布：『重層的支援体制整備事業の取組』)

当日資料に基づき市福祉政策課担当者から説明した。特に質問はなかった。

(4) 意見交換

委員長

全ての委員からご発言をいただきたい。本日の感想も含めて順番で1人あたり2分程ご発言いただきたい。

委員

磐田市自治会連合会代表。自治会連合会は『福祉』は部門として取り扱っていないが、関連して各機関から情報が来る。こういった会議に出席する以上、自分の立場としていろいろな場で報告しているが、役員は1年交代が84%を占めている。そうするとその任期の中で多岐に渡るところまでは取り組めない。本当に難しい段階でいろいろな問題が起きている。ではどうするか、ということだが、こういう場で情報をいただき、その情報を伝えていくことが自分の役目だと思っている。

委員

磐田市民生委員児童員代表。市や社協がどういう方向性を持って福祉事業を推進しているかということは分かったが、民生委員児童委員はこういう思いまでは自覚していない。市がこういう方針をもってやっているというような細かいところまでは民生委員児童委員には伝わってきていないと感じた。民生委員はいろいろな問題の入り口を探すという役割だが、先ほどフレイル予備軍に対する地域リハビリテーション支援事業の取組みや生活支援コーディネーターの動きを初めて知った。各地区民児協の定例会では講演会等の情報を周知されるが、情報伝達の間になっていると感じる。もう少し違う形で民生委員児童委員の役割を考えていかないといけないと思った。

委員

磐田市地区社協等連絡協議会の代表。地区社協全体の課題はボランティアグループのようなものだが、役員の成り手がいない。やっと組織に入っても役員までのなり手がいない。そこで退任後の民生委員児童委員や福祉委員との連携を模索している。これからもいろいろな問題があると思うが、皆さんからのお知恵を賜りたい。

委員

チーム団塊代表。今は元気で社会参加をしているが、運営側が 70～80 代と高齢になり、ボランティア活動の次の引継ぎを考えてしまう。次第に孤立化、孤独化している中で支え合える、地域福祉は更に重要になってくる。価値観の多様化、いろいろな格差、家族の中でもコミュニケーション不足などの問題がある。次第に個の時代になり寂しい部分もあるが、AIではなくリアルな人との繋がりで刺激を受けたいし大切にしていきたい。そういう活動をしていきたい。

委員

磐田市 NPO 法人連絡会。3 点簡単に話したい。1 つは重層的支援体制整備事業について。自分の職場に直近である相談が入り、走り回った。体験したばかりなので本当にこのことが大切だと感じた。2 つ目は人材育成の難しさについて。やはり人と人との繋がりがないと、人材育成講座をやっても人と人とのつながり、その後の展開がないと続かないのが現実。一方的な講座を仕掛けるのではなく、企画段階から一般市民と企画していくと効果があるのではないかと。3 つ目は AI の活用について、心が育っていくという面で危険に感じる。先ほどから情報が増えていくという点が挙げられているが、その多くの情報を取捨選択できないと活用につながらない。AI も同様に心と心がつながる部分が福祉では一番大切。そこが市民の安心安全な生活に繋がる。人と人とのコミュニケーションを一番大切にしてもらって、色々な体験や経験からコミュニケーションを豊かに膨らませてもらった生きがいになるべく多くの人に感じてもらいたい。磐田市は決して派手ではないけど、心豊かなあたたか

い市だと言われるような要素を持っていると思いますので、私はこの計画にも支援と協力をしたいと思います。

委員

社会福祉法人八生会。全体の計画を見ていると多岐に渡り、推進していくことは本当に大変だと感じる。社会福祉施設としての役割もあり、施設入所者、サービス利用者への支援だけでなく、福祉の推進は課題だと思っており、福祉教育にも積極的に関わっていきたい。福祉教育に関する講座開催だけではなく、当法人では、子どもが福祉に自然と触れていただく機会を設けている。施設内の部屋を開放してその部屋へ遊びに行っているが、実はそこが福祉施設だったというふうな福祉の心を育む取り組みや、施設のイベントに多くの方が参加していただける機会を積極的に設け、お年寄りと交流していただく。そういう子どもたちが育っていけるように取り組んでいきたい。

また、特別養護老人ホームでは身寄りのない成年後見制度の対象となり得る方は多く、福祉施設としてこの先どうなるのか不安がある中で、ノウハウが蓄積されていないとそこで少し身構えてしまう。そこは地域包括支援センターなどと連携しながら蓄積しているところではあるが、そういう部分では課題かなと思っているので、市民の中に広がるということと、福祉機関がノウハウを蓄積したり共有できるようなものがあると支援が必要な方たちの入所やサービスの利用にもつながっていくと思う。その他直近では、災害が多く起きている中で、磐田市では地域住民の避難計画が出ていると思うが、福祉施設としても福祉避難所がどのように機能していくか明確ではなく準備にばらつきがあるのではないかと思う。その見通しがあると、施設側も心づもりが出来ると思うので、行政と連携していきたい。

委員

公募により選出。重層的支援対策に関わる部分でいうと、病院などからいろんな目的で自宅に帰っている方が多い。その中で自立生活ができない方、身体障がいや精神障がいの方も多く、若い世代から高齢者世代までの相談業務が増えてきている。家族形態もだいぶ変化しており、小さい頃から病気であった子を看ていた親が高齢化してその親や代理意思決定をする方が亡くなることもあり、そういう場合は先ほどの話の中では成年後見制度が進んでいるのでいいかと思っただが、結局住まいが重要になってくると思う。

まず、今回、重層的支援体制整備事業の中で令和8年度からはまず相談業務が始まるということなので確立してくると磐田市としてそこが強みになる。相談業務は本当にいろんなスキルが必要だと思うので、窓口が確立するという事は嬉しく思う。

委員

公募により選出。先日見付地区社会福祉協議会が主催する宮本茶屋へ参加した。その日は太鼓の団体が演奏を披露しており、幼稚園、小学生や高校生、外国籍の方を含む多世代が

参加していた。なぜそういうことが出来るのかと思うと、一つ一つのもとの団体がしっかりしている。こういう市民の力がもっと広がっていくといい。スーパーの掲示板を見るとスポーツ関係の募集が多いが、その中に子育てサロンなど地域の情報もある。先ほどの話にもあったが、福祉は人間関係や人と人とのつながりなので、磐田はスポーツの町で個々の活動はしっかりしているので、そういったもともとある磐田の宝に福祉の要素が入って活動を広げていくことが出来たらいいと思う。

委員

豊田地域包括支援センター。まず、計画作成の年ということで、2024年に認知症基本法が出されており、やはり新しい認知症に対する考え方ということで、認知症になったから全てできない訳ではなく、認知症になってもできることは沢山あり、やりたいこともあるというようなことにもなっている。なので、認知症の人、障害者の人、現状の人を支えるというような施策ではなく、みんなで暮らしていこうね、やっぺいこうねというような、それが地域共生社会を目指すということになるので、その視点は生かしていただきたい、ということが1点。2点目としては、包括支援センターにいる身としては、市民が相談することに対するハードルの高さを感じている。以前より自分たちの力が落ちてきたのを感じてはいるけれども、でもまだ相談したくない、相談をすることが憚られている感覚というのが肌感覚である。地域包括支援センターが高齢者の相談窓口になるが、まずは地域の人、周りの人たちがちょっと支えてあげる、ちょっとそこを聞いてあげる。そこで解決することもあるかもしれない。でも、そこで難しかったりする。その場合に一緒に地域包括支援センターへ相談に行こうよという後押しをしてくれるような、そんな地域の住民の方たちをお願いできるような地域づくりを望んでいるところである。3点目としては、他の委員の方からも出ていたが、重層的支援体制整備について。現実、今複雑な家庭に皆さんが関わっている中で、ここは重要になってくると思うが、専門職の立場からすると、やはり見えている事象をまずは何とかしようとして、そこに取り組み、そのことが解決すると、一旦は火が消すことができるかもしれないが、根本的にその一家にどういう課題があるということ、関係者が共有をして、そこで役割分担をしてワンチームになっていかないと、なかなか会議はしても進まないという状況が出てくるのではないかと思う。やはりそれぞれの教育課程が違う中で、自分たちの分野の法律の中でというところもあると思うので、まずは、その一家のために相手の関係機関の話をしっかり聞ける専門職でないといけない。関わる専門職が自分たちはこうあるべきだという主張だけをしていくと、誰のための支援かを考えていかないといけない。これは専門職として取り組んでいくべき課題だと思う。

委員

磐田新聞販売組合。磐田新聞店8店で磐田見守りネットワークということで、朝刊配達時に新聞がたまっているお宅があると、地域包括支援センターへ連絡し、自宅で倒れている方の救済をするという活動をしている。店舗ごとに活動しており、私の店ではグラウンドゴ

ルフ大会を高齢者限定ではなく地域住民全体を対象に実施し交流の場を設け、会話を通して認知症やフレイルなどを予防するような活動をしています。また数年前に、新聞販売組合で認知症サポーター養成講座を実施し体制を整えているが、課題としては新聞を取っている方が対象となるため、全体の高齢者対象とはならないが、それでもできる範囲で活動をしている。

委員

磐田市身体障害者福祉会。ボランティアのことで質問。高校で出張ボランティアセンターを実施したということだが高校生はボランティアに対してどういう考えを持っているのか、これから社会につなげていくような意見などあったか。

事務局

今年度初の取組みで、高校へボランティア担当が出向き相談に乗る機会をいただいた。高校生ということで将来につながるような考えを持っており、ご自身が興味のある分野に関わるという視点だったり、社会参加というところで興味を持っていたりして、活動に携わっていただいているような状況である。

委員

磐田市身体障害者福祉会。昨年度、学校教育課へ依頼し本会のスポーツイベントで中学生のボランティアを募集したが、中学生ボランティアの登録者数が大幅に減ったということだった。中学生もボランティアに対する考え方が変化しているのではないかと思う。高校生に対してアプローチしているということだが、せっかく中学生でボランティア活動しても高校生になると繋がりが無くなっている気がする。以前は高校生のボランティアが多く、活動の主体だったが、そのうちに中学生が増えた。せっかくなら高校生まで繋がってほしいといい。以前市社協へボランティア募集の相談へ行ったが、自分たちで高校へ出向いて欲しいと言われた。市社協も窓口を広げてもらい、中学生が学校教育課なら、高校生は社協が窓口になってもらえると助かる。

委員

磐田市ボランティア連絡協議会。私たちはボランティア活動をする団体の集まりになる。ボラ連の目的としては、子どもや高齢者、障がいをお持ちの方、また地域活動に関わっている方をグループに分けて、それぞれのグループが話し合いをしながら活動の支えにしている。一般住民対象ではなく、当事者に対してのボランティアのため、あまり知られていないかもしれない。そこで、1月25日（日）午前10時から正午までボランティア交流会を開催する。そこではボラ連加入団体が自分たちの活動を紹介するブースを設けて、お互いに体験しながらコミュニケーションして、より良い活動につなげていく。参加自由なので、ぜひ、ご来場いただきたい。

4. 事務連絡

次年度の会議は年5回開催予定

5. 閉会